

## **青葉区国見地区民生委員児童委員協議会**

(平成 27 年 1 月)

国見地区は、仙台市の西、伊達政宗により建立された「どんと祭」で有名な国宝大崎八幡宮を扇のかなめに、広瀬川河畔の地域から太平洋を望む国見峠あたりの丘陵地帯、お寺の多く点在する三条町・北山までの区域で、その中に 2 つの大学がある地域です。仙台市青葉区内でも高齢化・少子化が顕著にあらわれている地域です。

東日本大震災から 3 年 10 か月が経ちましたが、地盤沈下してしまった土地の改善工事や倒壊家屋の撤去など、ようやく工事が始まった所や長期にわたって工事が進行中の箇所もみられます。住民の直接的な被害は仙台市の中でも少ない地域でしたが、身内や親せきの方がたが犠牲になった住民も多く、まだまだ皆さんの心の痛みは消えていません。

本地区は震災直後のライフライン、特にガスの復旧が市内でも一番遅い地域でした。断水が解消されるまで、高齢者のお宅への水の運搬を民生委員、社協の福祉委員が行ないました。この震災を契機に、一人暮らしの方をはじめ、高齢夫婦、高齢者のみ世帯、障がいのある方、寝たきり高齢者のいる世帯などへ、民生委員、社協、町内会と連携した見守りがなお一層強化されています。

現在は、さらに高齢者が孤立しないように、社協のサロン活動や食事会、友愛訪問や見守り活動を民生委員、福祉委員が中心となって各町内会単位で行なっています。会館などがある町内会では、毎月市政だよりの配布仕分けにあわせて茶話会を実施し、高齢者と町内会役員、民生委員、福祉委員と触れ合うことでうまく機能しています。この場合は町内の情報や地域の困りごとなどいろいろな話を聞くことができ、それぞれについて速やかに対応するうえで大変助かっているようです。しかし、こうした体制のない町内の方が多く、また近所付き合いが苦手な高齢者が多いのも現状です。そうした方がたへの対応としては、民生委員による個別訪問や福祉委員の友愛訪問、見守り活動が重要になります。昨年末も、年末に向け、地区内の一人暮らしの方、高齢夫婦、障がいのある方など訪問し、非常食の準備や火災予防、詐欺の被害にあわないよう声かけをしました。また、地域の 2 つの大学の学生による温かな支援が高齢者に対して向けられています。冬場の雪かきや見守りの声かけなどが一部の地域で行なわれており、若い世代に見守ってもらえることを大変ありがたく思います。

子育て支援として地区内にある 2 か所の児童館において、それぞれ乳幼児対象の活動を行なっています。児童館には近隣からだけでなく、遠くの地域からの親子も多くみられ、年々利用者が増えてきています。最近、市内で、残念なことに乳児が犠牲になってしまった痛ましい事件がおきていますが、児童に関しては、問題が発生した場合、主任児童委員と地区担当民生委員、児童館、小学校、中学校、児童相談所が連絡を取り合いながら対応をしています。

今後も、私たち民生委員は常に地域の情報を得て、その方に寄り添い、問題解決のために関係機関と連携し、いち早く対応しなければならないと考えています。